



民族文化を考える 平成18年度アイヌ文化講座

今年のアイヌ文化講座は、少し専門的な主題を選び、外部から講師を招いてお話を聞くことにしました。今号は、9月と10月に行われた二つのアイヌ文化講座で話されたことをお知らせします。

9月24日(日)、第1回アイヌ文化講座を当館映像展示室で行いました。「中国北方少数民族ホジェンの皮革加工について」との演題で、講師にお招きした中国黒竜江省出身の李林静氏は、アムール川、ウスリー川、スガリ川流域に住む先住民族、ホジェンに伝わっている魚皮と獣皮の加工工程の調査結果を、映像を使って説明されました。



第1回アイヌ文化講座での講演会

現在のホジェンの人々について始めに話された上で、加工道具とその使い方、なめし方を、他民族が使用する道具との対比を交えながら、詳細に説明されました。また、ホジェンの皮革加工は、女性と男性両方が行うこと、1930年代以降、魚皮衣などを着ることがほとんどなくなり、皮加工の技法も失われつつあることとも報告されました。

10月7日(土)には、伊達市噴火湾文化研究所所長の大島直行氏を講師に、第2回アイヌ文化講座「縄文文化に見るアイヌ文化のめばえ」を行いました。

大島氏は、約1万年間続いた縄文文化を人間の心の視点で見ると、アイヌの自然観と共通した事柄が見つかるとして、興味深い事例の解釈をあげ、擦文文化より縄文文化の方にアイヌ文化の芽生えを見ることができると述べられました。

なお、次回のアイヌ文化講座は、11月23日(木)、旭川市博物館学芸員瀬川拓郎氏の講演で、「アイヌエコシステムの考古学」(仮)を予定しています。(木田瑞恵)

博物館開催事業のご案内

秋のコタンノミ 10月28日(土) 10:30~12:30 当館ポロチセ

アイヌ文化講座 11月23日(木) 13:30~15:00 当館映像展示室

演題:「アイヌエコシステムの考古学」 講師:瀬川拓郎氏(旭川市博物館学芸員、文学博士)

アイヌ語教室 11月23日(木) 17:30~19:00 当館研修室

内容:「基礎的なアイヌ語」 講師:本田優子氏(札幌大学助教授)

アイヌ語教室、文化講座に参加ご希望の方は、事前に 学芸課 TEL 82-4199 までご連絡ください。

へまた・てまな

へまた＝なに、てまな＝どのように・・・樺太方言

刺青の話

アイヌの女性を描いた古い絵や写真を見ると、口や手のまわり、眉間が黒くなっているものがあります。むかしのアイヌの女性は、一人前になると刺青をしていたのです。金成マツさんは、この習慣を「本州のおはぐろのようなもの」といっていますが、うまいたとえだと思えます。

刺青は、結婚や、死後に先祖の国へ入るための条件でもあり、また健康への効果もあるといえます。もちろんおしゃれのためでもあり、大きなパーティーに行く前には、刺青を入れなおしてくっきりさせたという話もあります。また、あまり多くはありませんが、男性も弓矢の腕があがるように、あるいは健康のためにと刺青をすることがあったそうです。白老でも、森サリキテさん(1862年～1923年)という男性が手首に刺青をしていたそうです。

刺青は、19世紀後半に日本人によって禁じられましたが、その後も数十年間つぎました。信仰の上で大切なものであり、年配の女性達にとっては、絶やしてはならないアイヌ女性のシンボルのようなものでした。また、少女たちにとって、お姉さん達の刺青はあこがれだったようです。私の曾祖母は、19世紀末の生まれで、同年代の少女達はもうあまり刺青をしなくなっていたそうですが、年上の少女たちの刺青を見て、自分から入れてもらったそうです。じっさい、刺青をした方にお会いすると、少し青みがかった色でとてもきれいです。

刺青の習慣は、本州や沖縄をはじめ、シベリアやアラスカなどひろく見られます。アイヌの場合、そもそもこの刺青は女神たちがしていたもので、アイヌ女性もそれにならって始めたと伝えられています。

北海道で宣教師をしていたジョン・バチェラーさんという人が、刺青にまつわる話を紹介しています。

「むかし、心がけの悪い女性がいて、6人の男性と結婚しては、不仲のために相手を呪い殺してしまいました。そのことを神様がたいへんおこり、女性を蛙にかえて、沼地にしか住めないようにしてしまったそうです。だから、いまでも蛙の中には手に刺青のような模様がはいったものがあるのだといえます。」



「むかし、地上をつくった神様が、スズメをつくって放しました。神様が地上をつくり終えて天へ帰ることになったとき、生き物たちはお別れのパーティーを開くことにしました。ところがスズメのところへは知らせが届いていませんでした。ですから、スズメたちは何も知らずにいっしょうけんめい刺青で化粧をしてました。あとから知らせを聞いたスズメたちは、あわてて刺青をやりかけのままでかけました。こうしたわけで、今でもスズメはくちばしのまわりだけ刺青が入っているのです。」

刺青の習慣は長い間すたれていきましたが、近年、古式にのっとった結婚式などで、刺青の模様をペイントする女性もでてきています。
(北原次郎太)